

大会における新型コロナウイルス感染拡大防止対策について 5.23

広島市中体連バスケボール専門委員会

1. 大会組織

(1) 「感染症対策責任者」を置く。

2. 注意喚起・奨励啓発

(1) 大会参加者（選手・指導者・応援者・審判員など）に手洗い・消毒の推奨を徹底し、啓発を行う。

(2) 大会参加者（選手・指導者・応援者・審判員など）にマスク着用を徹底する。

3. チーム関係者（指導者・選手）

(1) 選手の会場への入館開始時間を、試合開始時間の1時間前とする。

(2) 試合当日、「健康チェックシート」を「感染症対策責任者」へ提出する。

指導者・選手は、入館時の検温を行う。

(3) 着替えができるだけ少なくてすむバスケットスタイルで、参加すること。

(4) 選手は、自分専用のタオルと飲み物を持参し、他人と共用しないこと。

(5) 選手は競技中やアップのとき以外は、マスクを常時着用する。

(6) ベンチのスタッフも、マスクを常時着用する。

特に、スタンディングコーチは、マスクをずらして指示を出す等をしない。

(7) ベンチでは、集団での応援（歌や集団で声を出しての応援）はしないこと。

応援は、拍手のみとする。

(8) コートに出る選手は、コートに出る前に、自分のマスクが他の人のものに接触しないように、自分のタオルに挟んでベンチに置くこと。またはマスクを入れる袋等を持参すること。

(9) タイムアウトでベンチに戻った選手は、できるだけ間隔をとって座る。

(10) 試合終了後、交代席を含むチームベンチは、試合で使用したチームスタッフで消毒をすること。TO席・TO機器は、役員で消毒する。

また、試合終了後のTOや観客等へのあいさつは行わない。速やかにベンチを空けること。

(11) 密集を避けるため、ベンチの消毒が終わり、指導者からの指示があるまでは、次試合のチームはフロアに入らないこと。

(12) TO生徒、モップの生徒もマスクを着用すること。

(13) 次の試合がないチームは、速やかに退館すること。

(14) 会場への移動については、各チームで分散集合、分散解散等を行う等、公共交通機関が密にならないような配慮を行う。

(15) 食事のときは、マスクを着用していないため、感染リスクが高まる。食事をとる場合

は、できるだけ人との間隔をとり、短時間で、無言でとる。その他の場面でも、マスクを着用していないときは、とにかく会話をしないことを徹底する。

4. 観客

(1) 自チームの試合だけ観戦できる。試合開始時間の20分前から入館できる。試合ごとに入れ替えをする。

(2) 観客は、マスクを着用する。声を出しての応援はできない。応援は、拍手のみとする。

(3) 入館時の検温をし、本部が用意した一覧表に名前・関係チーム名等を記入する。

5. その他

(1) 消毒液・予備のマスク、ゴム手袋、ごみ袋、ハンドソープ、非接触式検温計、雑巾等を会場に準備する。

(2) 新型コロナウイルス感染症等で、緊急事態宣言が出される等、社会情勢上、大会開催が困難な場合、大会を中止することがある。

6. 大会参加の基本的な考え方

【選手個人の参加について】

(1) 本人・保護者は、大会要項やガイドラインを確認し、学校長に所定の大会参加同意書を提出の上、大会に参加すること。

(2) 「健康チェックシート」にチェック✓がつかない項目がある場合は、参加を見合わせ・来場も見合わせる。

・選手は、検温の結果、37.0以上の場合は、時間をおいて2・3度検温をする。
いずれも37.0以上の場合は、大会への参加を見合わせる。

37.5以上の場合は、すぐ不参加を決定する。

・選手は、体調が良くない場合（咳・咽頭痛・味覚・臭覚障害などの症状がある場合）は、大会への参加を見合わせる。

・チーム指導者は、選手が入館時または入館後、発熱等の症状が出た場合、保護者に連絡を取り、帰宅させる。あらかじめ、保護者に迎えに来てもらう場合があることを周知しておくこと。同時に、連絡できるように準備をしておくこと。

【チームの参加について】

(1) 感染者及び濃厚接触者が判明した場合は、チームが所属する地域の保健所に早急に届け出ること。その後は、保健所の指示に従うこと。

そのチームの代表者は、学校長および専門委員長（井口台中学校 望月）まで連絡をすること。

(2) 感染が疑われる体調不良者が出た場合は、学校長と連絡を取り相談すること。

参考「JBAバスケットボール活動再開に向けたガイドライン 第2版」p11～p18

*大会参加への自粛が行われた場合、このことに対してチーム内・チーム関係者・保護者等の間で誹謗中傷が起こらないように配慮する。